

## 日々ふれあい 自分の居場所と感じて

NPO 法人「三楽」本部長  
串田 晴美 さん



異年齢との交流で  
一人一人の主体性を育む

「子どもたちがありのまま  
で、第二の家のように過ごせ  
る場所にしたいんです」

そう話すのは、4月に火打  
で開所した、留守家庭児童育  
成クラブ「キッズクラブ川西  
北」を運営するNPO法人「三  
楽」本部長の串田晴美さん。  
三楽は全国78カ所で児童ク  
ラブを運営する他、学習支援  
施設やこども食堂なども運  
営。さまざまな現場で培った  
ノウハウを保育に生かしてい  
ます。

「スタッフの年代は、大学  
生からシニアまで。年齢やス  
キルなど、多様な人材がいる  
のは、民間ならではの強みで  
はないでしょうか。子どもが  
新しい価値観や考えにふれる  
ことは、心の成長につながり  
ます」

現在の児童数は、小学1〜  
5年生までの7人。少人数だ  
からこそ、一人一人の思いや  
主体性を大切にしていると串  
田さん。

「アットホームな雰囲気  
で、みんなきょうだいなみに仲  
良しなんです。年齢が異なる



子たちが日々ふれあうこと  
で、協調性や社会性が自然と  
育まれていると思います。遊  
びのメニューはいつも子ども  
たちにお任せ。身近にあるも  
ので、何でも工夫しながら遊  
んでいますよ」

学習のサポートなども欠か  
さないと串田さん。  
「毎日学習の時間も必ず設  
けています。働いている保護  
者がほとんどなので、家で一  
緒に過ごせる時間は貴重で  
す。今日あったことなど、ゆっ  
くり対話することを大切にし  
てほしいんです。なので、宿  
題はできるだけクラブで終わ  
らせるようにしています。そ  
して帰る前はみんなで片付け

やお掃除。日常生活に必要な  
習慣を、ここで自然と身に  
つけていますね」

地域でつながり  
見守り合う

開所したばかりで、近隣で  
もまだクラブを知らない人が  
いるそうです。今後は積極的  
に地域と交流していきたいと  
話します。

「コロナが落ち着いたら、  
近くの保育所や高齢者施設と  
一緒に何かできたら。餅つき  
や夏祭りなど季節のイベント  
を通して、つながりを深めて  
いきたいです。地域で知り合  
いが増えれば、お互いの見守  
りにもなりますから」

## おとな子どもも 食と育つ

保健センター  
☎ 072(758)4721



## “リボベジ”に挑戦

野菜のヘタなどを育ててみましょう

**memo** 環境や社会に配慮した消費行動を「エシカル消費」といいます。10月号は日常で実践でき、節水などにもつながる災害食を掲載。今月は食品ロスに配慮した取り組み「リボベジ」を紹介します。

使った後は捨てがちな野菜のヘタや豆苗の根元。食材として実はまだまだ楽しめるのに、捨ててしまっていないか。ヘタなどを無駄にせず再収穫を楽しむことを「リボンベジタブル（再生野菜）」、通称「リボベジ」と言います。

育て方は簡単。切り取った後の根部分などを水に浸しておくだけで、数日たつと少しずつ葉っぱが育ってきます。水は毎日取り換えましょう。リボベジは基本的に実よりも葉の部分で育てるため、観賞用としても楽しめます。

さまざまな野菜がリボベジできますが、初挑戦の人におすすめなのは豆苗です。再収穫が簡単にできる上、栄養価が高く、アクも少ないので手軽に調理できるのも魅力です。

最初に使う時は炒め物などに、リボベジしたものは若干細めに成長するので、スープやみそ汁の具として楽しんでみてはいかがでしょうか。

また、野菜は少し苦手という子どもとは、野菜と一緒に育てて興味や愛着を持ってもらう機会にしてみましょう。

食材を上手に使い切ったり再生したりすることで、食品ロスの削減となり、環境へ配慮することにもつながります。

Check

「食品ロスをなくす」がテーマの大阪青山大学の学生考案レシピを市ホームページで紹介



## 生きる

人権推進課  
☎ 072(740)1150

## 「見える」と「見えない」 Vol.2

見えることを  
見えない人に意識し過ぎず伝える

10月号のコラムで、「見える」って何だろうという話題に登場してもらった重度の弱視の女性とは、以前に何度か一緒に仕事をしたことがありました。

その時に言われたことは、「栗木さんは、いい意味で遠慮がないから楽」ということでした。無頓着な私は、平気でホールの広さや飾り花の種類、来賓の派手な服の色まで、彼女との雑談のネタにします。慎重な人は、彼女が見えていないことを話題にすると失礼じゃないか、人権的にアウトと思われるのじゃないかと、ドキドキなのでしょうね。みんな、彼女の手が届く範囲内の情報（水やマイクの位置など）は、とっても丁寧に伝えてくれるのですが…。

想像してみてください。あなたの周囲半径1メートルにだけスポットライトが当たり、その周りは真っ暗だったら怖くないですか。私の雑談の中から必要な情報だけを集めて、彼女は自分がある空間を、より安心なものに構築しています。「栗木さんが大きな声でしゃべるから、その反響で舞台の広さや奥行きも分かる」とのことでした。

コンコンと音を立てて空間の広がりを確認する白杖の代わりとして、私は使われていたようです(笑)。

視覚障がいの人と接する時、ついつい「見えない」ことばかり意識が向かっていませんか。

私たちの「見える」ことを上手く活用してもらえるよう意識した方が、お互い楽しく過ごせると私は思うのだけれど…。

「見える」って奥が深いでしょう。広報誌12月号に続く。  
(mottoひょうご事務局長 栗木剛)

## 消費生活センターだより

消費生活センター  
☎ 072(740)1167

## 海産物の電話勧誘にご用心

善意が思わぬ結果に  
必要なければキッパリと断りましょう

**事例1** カニの産地がある市場から電話があり「コロナ禍の影響で収入が減ったので助けてほしい。2万円でズワイガニを買ってもらえないか」と懇願され、気の毒になって頼むことにした。後日、代引きで届いたのはカニ棒だった。ネットで調べると全く同じ商品が3,000円で売られていた。返金してほしい。(50歳代男性)

**事例2** 「以前、お世話になりました」と業者から電話があり、昨年、ネットで海産物を取り寄せた業者だと思った。サービスするというのでホタテとエビを注文した。電話を切った後に違う業者だと気づき、かかってきた電話にかけ直したがつながらず、断ることができない。(40歳代女性)

**回答** 消費者の同情心につけ込んだり、取引のあった業者だと思わせたりする電話勧誘が増えています。

どちらも契約書を受け取ってから8日間はクーリング・オフが可能です。

事例1は、すぐにクーリング・オフ通知を出し、業者に連絡した上、着払いで商品を送り返しました。しかし、何度返金を求めても応じず、約1カ月半後にようやく返金されました。

事例2のように、連絡がつかないまま商品が届いた場合は、受け取り拒否し、送り状に記載の業者名や住所などを控え、クーリング・オフ通知を出すことになります。

必要なければ断ることが大切です。断っているのに届いた場合、支払う必要はありませんし、返品する必要もありません。困ったことがあれば消費生活センターへ。